

明治大学の教育

PROFILE



堀金 由美
HORIKANE Yumi

政治経済学部教授・教務主任
 専門:比較政治、比較政治経済学、開発の政治学、開発援助論
 1960年 神奈川県生まれ
 1983年 東京大学教養学部卒業
 1983～88年 国際協力事業団(現国際協力機構、JICA)
 1992年 ケンブリッジ大学社会科学部 開発の社会・政治学修士(Mphil in Sociology and Politics of Development)
 1992～96年 財国際開発高等教育機構(FASID) 国際開発研究センター研究員
 2001年 ケンブリッジ大学社会科学部 政治学博士 Ph.D.
 2001年 東海大学教養学部国際学科非常勤講師
 2002年 明治大学政治経済学部専任講師

2005年 同 助教授
 2007年 同 准教授
 2011年から現職
主な著書・論文
 "The Political Economy of Heavy Industrialization: the Heavy and Chemical Industry (HCI) Push in south Korea in the 1970s." *Modern Asian Studies*, 39-2, 2005
 『国際協力の現場から—開発にたずさわる若き専門家たち』(共著・岩波書店・2007年)
 『レントと政治経済学』(共著・八千代出版・2013年)
 『国際開発学事典』(共著・丸善出版・2018年)
所属学会
 日本政治学会、日本比較政治学会、アジア政経学会

を結んでおり、こうした大学へ留学して世界中から集まる学生たちと切磋琢磨しながら学ぶことも可能です。

留学生の受け入れにあたっては、留学生サポーター制度とあって、一般学生から募集・選考された学生が留学生の勉強・生活のサポートをしたり、本学セミナーハウスで共に泊りがけでワークショップを行ったりする制度を有しており、留学予定の学生の留学準備に役立てることに、必ずしも留学はしない学生にも一定の国際交流の機会を提供してきました(この制度は、2022年4月からは「政経サポーターズ(The SPSE Supporters)」として、さらに活動の幅を広げていく予定です)。これに加え、留学生をゼミナールの授業に受け入れ、一般学生と共に学び、交流する場も設けています。

このようにして、留学生の派遣・受け入れを中心として積極的な国際化を図ってきた政治経済学部ですが、2017年度には、国際社会の最前線で活躍する人材の養成を目指し、すでに一定の語学力と高い意識や多様な国際経験などを有する受験生を対象とした「グローバル型特別入試」を開始しました。

政治経済学部の「グローバルキャリア形成プログラム」
 —グローバル社会で通用する力を身につけ、世界へはばたくことを後押しするために—

政治経済学部では、2022年4月以降入学者を対象として、グローバル人材養成のためのプログラム、「グローバルキャリア形成プログラム(Global Career Development(GCD)プログラム)」を開始します。本学部はこれまで、学部独自の多様な留学プログラムを展開してきましたが、この新プログラムは、こうした従来の国際化の実績を土台としてさらになる学部教育の国際化を推進しようとするものです。以下、政治経済学部の国際化の歩みを簡単に振り返った上で、この新しいプログラムの概要と今後に向けた展望をご紹介します。

政治経済学部の留学プログラム

政治経済学部では、明治大学の多くの留学プログラムに加え、独自の学部間協

以上のような学部教育国際化の歩みを背景として、このたび、こうした制度を有機的に組み合わせつつ、さらに格段にパワーアップしようとして設置するのがこの新しいプログラムです。

グローバルキャリア形成プログラムの概要

このプログラムでは、一定の語学要件を満たす学生を毎年50名程度募集・選抜してプログラム参加者とし、1年次から自らの将来のキャリアを考え、目標を定める機会を提供するとともに、その目標実現に向けたそれぞれの学びを原則として4年間にわたって強力にサポートします。一定の修了要件を満たした学生にはプログラム修了証を授与する他、2年次終了時に優秀な成績を収めている学生には、その後の留学や海外インターンシップ費用などに充てることのできる奨学金(支援金)を支給します。

プログラムの「学び」を構成

プログラム科目と修了に必要な単位数		修了要件 単位数
科目		
外国語科目	ACE Academic Training, ACE Presentation Skills ACE Content-based Study, ACE General Communication Skills, ACE Exam Skills, ACE Multimedia Independent Study ※1 ACE Academic Training の単位を2単位以上修得すること ※2 ACE Presentation Skills の単位を1単位以上修得すること ※3 すべて、SまたはAの評価で修得すること	6単位
実施科目	ドイツ語Ⅳ, フランス語Ⅳ, 中国語Ⅳ, スペイン語Ⅳ	2単位
国際関係科目	英語による講義科目(国際教育プログラム科目・大学院科目も含む) Top School Seminar 科目, 外国語で実施されている教養演習 ※1 教養演習は4単位まで	8単位
国際関係科目	留学による認定科目, グローバル人材育成プログラム科目, 海外留学演習, 国際政治系および国際経済系パッケージ科目, 国際地域・文化論コース科目, その他教授会で認定した科目	18単位
合計		34単位

「グローバル人材」は特定の業種・職種ではないため、そのために必要となる専門知識・能力は実に多様で、つまり学ぶべき科目は多岐にわたります。参加者は、自分の目指す道により、必要な専門科目を選択して履修することになります。

する基本要素は次のとおりです。ここにあげる授業はプログラム参加学生以外にも開かれており、広く学部教育の国際化に資するものとなっていますが、プログラムは、これらの要素を一定のパッケージとして組み合わせ、その相乗効果によるさらなるインパクトを狙うものとなっています。

定により、世界の14カ国・地域に40以上の留学プログラムを展開しています。長期(1学期以上)の交換留学に加えて、いわば留学の入門プログラムとして、夏や春の長期休暇期間中に2〜4週間、教員の引率の下にグループで海外の協定校を訪問して授業を受ける他、行き先によっては現地の政府機関や日本企業を訪問する機会を盛り込んだ各種短期留学プログラムなども用意しており、これまで海外経験の多くない学生も安心して留学経験を積むことができるようになっています。また、イギリスのLSE(London School of Economics and Political Science)やシンガポールの南洋理工大学(Nanyang Technological University)、中国北京大學などといった世界の大学ランキングでもトップクラスの大学とも協定

① 就業力育成総合講座

国際機関や外務省・JICA（国際協力機構）・JETRO（日本貿易振興機構）などの政府（関係）機関、総合商社やコンサルティングなどの民間企業やNGOなど、国際社会のさまざまな分野の最前線で活躍する外部講師をお招きし、現場での体験談も含めたそれぞれの仕事に関するお話を伺います。グローバル社会における多様な仕事の「幅」と現状に触れることにより、自らのキャリアを考え、目標に向けた準備・努力につなげるきっかけを与えることが目的です。

なお、このきっかけから芽生えた目標に向けた努力を後押しするために、プログラムには経験豊かなアドバイザー（特任教員）を置き、個々の参加学生の相談に乗り、助言を与えることができる体制を整えています。

② ACU (Advanced Communicative English) : 英語実践力特別強化プログラム

グローバル社会で活躍する人材に高度なコミュニケーション能力が必要となることは言うまでもありません。英語が全

てというわけではありませんが、一般的にはグローバル社会におけるコミュニケーションツールとしてまず何よりも必要とされるのが実践的な英語力であることは間違いないでしょう。

政治経済学部では、以前からACEプログラムを設置しています。読み書き偏重の日本の英語教育においては不足しがちな実践的コミュニケーション能力の強化が主たる目標です。GCDプログラム参加者は、このACEに参加してさらなるコミュニケーション能力の向上に努めるとともに、2022年度からACEの中に新設される高度なライティング能力強化のためのコース(ACE Academic Training)も履修し、「英語を使って働く」を越えて、文化・言語的多様性の中で「英語で働く」ために必要な能力を身につけることを目指します。

なお、グローバル社会で用いられる言語は、もちろん英語のみではありません。プログラムでは、第二外国語の能力強化も重視しています。



③ トップスクールセミナーなど、英語による教養・専門科目の履修

外国語で働くためのコミュニケーション能力の育成には、言語の学習に加え、外国語を用いて学ぶ環境も有用です。海

外の一流大学から招聘した教員が、それぞれの所属校のスタイルで授業を展開するトップスクールセミナーを履修して、さまざまなスタイルや視点に触れることや、教員の国籍にかかわらず、外国語によって実施される授業に参加し、留学生も含めた多様なバックグラウンドを有する学生たちや講師と共に、時として概念的・学問的な議論をすることも、グローバル人材を目指す学生たちにとっては重要な学びとなります。

④ 留学・海外インターンシップや国内における専門的学習

昨今は学生のバックグラウンドも多様です。保護者の仕事の関係などで、すでにかんがりの海外経験を有する学生も増えています。そのような学生にとっては、必ずしもこれ以上の留学が望まれるわけではなく、かつての経験と感覚を大切にしながら、それを生かすために日本で十分に学んでいた方がいいと思います。もちろん、さらなる経験を求めて留学やインターンシップに参加することも推奨します。ただし、グローバル人材に

なるためには語学力と海外経験だけが重要かという点、そのようなことは決してありません。日本にいて学べること、あるいは日本にいるからこそ学べることが多くあることを忘れてほしくはない、そう思います。そして、自分が何を指すかによって、専門的に学ぶべきことは大きく異なります。

もちろん、海外経験のない学生には、機会があればぜひ留学などに挑戦していただきたいと思っています。「百聞は一見に如かず」です。異文化の「匂い」と「感覚」、それを受け入れ、その中で自分の力でやっていく能力とその経験、そしてそこから生まれる自信は、さらなる挑戦と能力向上への刺激となりインセン

ティブとなります。

今後に向けて

政治経済学部は、タイのタマサート大学政治学部とダブルディグリープログラムの実施に関する協定を締結しています。この協定に基づいて、2023年秋学期にはタイからの学生が3年次に編入し、一般学生と共に学ぶこととなります（同時に明治大学の学生がタマサート大学へ行くことが可能です）。英語により実施される授業も増え、ゼミなどでそうした外国人留学生と共に学ぶ機会も増えることでしょう。もはや国際化は一部の学生の留学に止まるものではありません。企業や地域コミュニティと同様、より広範な新しいレベルの国際化が大学にも求められています。

そうした新たな社会で活躍していく人材を育てること、それがこのプログラムの目標です。学生たちに刺激を与え、たゆまぬ努力と挑戦を後押ししていきます。多くの課題と不確実性に満ちたこれからの時代、明日を切り拓く意思と能力を有する若者を世界に送り出したいと願っています。

